

「北海道におけるコンクリート構造物の性能保全技術指針(平成 25 年 12 月)」に関する正誤表

平成 27 年 12 月 16 日

< 構造物編 >

ページ等	誤	正	備 考
構造物編 p.1 (4) 最終行	構造物の維持管理を適切に行うために、点検、構造性能の評価、対策の要否判定等の診断結果や・・・	構造物の維持管理を適切に行うために、点検、構造性能の評価、対策の要否判定等の診断結果や <u>対策の内容等は適切な方法で記録し、保管しなければならない。</u>	
構造物編 p.4 表-解 1.2.1	アルカリ量の欄 「—, _____, —, _____」	「—, =, —, △」	____箇所が空欄になっていた。
構造物編 p.6 表-解 1.3.1	ひび割れ（天端） 橋軸 <u>直角</u> 方向ひび割れ	橋軸方向ひび割れ	
構造物編 p.8 表-解 1.3.3	①ひび割れ（ウェブに鉛直方向）の原因例 コンクリート打ち込み順序による温度差およびコンクリートの収縮 ②ひび割れ（箱桁ウェブ）の原因例 2. 温度変化クリープによる不静定モーメント	①コンクリート打ち込み順序による温度差およびコンクリートの収縮、 <u>新旧打ち継ぎ目</u> ②温度変化・ <u>乾燥収縮</u> ・クリープによる不静定モーメント	
構造物編 p.14 a-2) 3 行目	このため、主方向 PC 鋼材定着部の後埋めコンクリート部付近に発生する変状に着目して点検を行うのがよい。	このため、主方向 PC 鋼材定着部の後埋めコンクリート部付近や <u>PC 鋼材曲げ上げ部付近</u> に発生する変状に着目して点検を行うのがよい。	

ページ等	誤	正	備考
構造物編 p.14 b-1) 1行目	箱桁橋の主桁下縁（下床版）は橋軸直角方向のひび割れに着目する。	箱桁橋の主桁下縁（下床版）の橋軸直角方向ひび割れは、 <u>過荷重による曲げひび割れなどが原因で発生する可能性がある。よって、安全性に重大な影響を及ぼす可能性があることに留意して点検する。</u>	
構造物編 p.15 b-2) 1行目	箱桁橋の主桁下縁（下床版）橋軸方向のひび割れに着目する。	箱桁橋の主桁下縁（下床版）橋軸方向のひび割れは、 <u>腹圧力や応力集中に起因する可能性があることに留意して点検する。</u>	
構造物編 p.17【解説】 1) 5行目	グラウト充填不足の場合には、・・・	<u>初期に建設されたPC橋では、PC鋼材が主桁上縁に定着されているケースがある。その際、グラウト充填不足の場合には、・・・</u>	
構造物編 p.17【解説】 1) 下から 5 行目	締め固めが不十分な場合において現れる（写－解 2.1.3）。水が浸入しやすくなるため、・・・	締め固めが不十分な場合、 <u>水が浸入しやすくなるため、・・・影響にも発展する（写－解 2.1.3）。</u>	
構造物編 p.18 2) 2行目	作用荷重に対して相対的にプレストレスが低い状況で、建設時に何らかの理由で・・・が考えられる。	作用荷重に対して相対的にプレストレスが低い状況である。 <u>また、建設時に何らかの理由で・・・が考えられる。</u>	
構造物編 p.18 3) 下から 4 行目	支承条件が固定支持や弾性支持が変化した場合は、・・・	支承条件が固定支持や弾性支持に <u>変化した場合</u> は、・・・	

ページ等	誤	正	備考
構造物編 p.21 表-解 2.1.5	[劣化機構編] 2.3.4 点検を参照のこと.	[劣化機構編] <u>2.3.3 日常点検, 定期点検</u> を参照のこと.	
構造物編 p.31 本文 6 行目	3) 支間中央部付近箱桁下床版の変状調査	削除	PCT 桁に対する調査箇所・調査項目でないため削除する.
構造物編 p.34 本文 (3) 8 行目	5) 支承条件の変化 (支承部の機能不全) 環境作用による劣化に対する・・・	5) 支承条件の変化 (支承部の機能不全) 6) <u>中空床版橋の中空部上面側</u> 環境作用による劣化に対する・・・	
構造物編 p.60 2) 最終行	将来交通量については a) と同様に考える.	将来交通量については <u>1)</u> と同様に考える.	
構造物編 p.61 b) 下から 5 行目	滞水していが・・・	滞水して <u>いるが</u> ・・・	
構造物編 p.62 図-解 2.2.13	図一解 11.3.17 表一解 11.3.5	図一解 2.2.4 表一解 2.2.6	
構造物編 P.65 図-解 2.3.1	翼壁／天端の指示位置が異なる		

ページ等	誤	正	備考
構造物編 p.76 本文 1行目	橋脚の診断に際しては，要求性能，橋台の形式，構造的特徴・・・	橋脚の診断に際しては，要求性能， <u>橋脚</u> の形式，構造的特徴・・・	
構造物編 p.79 2行目	支承を介して上部工荷重が橋台に伝達され・・・	支承を介して上部工荷重が <u>橋脚</u> に伝達され・・・	
構造物編 p.79 12行目	<u>胸壁のひび割れ</u>	削除	
構造物編 p.94 3) 1行目	出現すること状態をいう．	出現 <u>する</u> 状態をいう．	
構造物編 p.101【解説】 1) 1行目	排水管の流末処理不足によって， <u>が</u> 沓座，主桁，落橋防止装置などに・・・	排水管の流末処理不足によって， <u>査</u> 座，主桁，落橋防止装置などに・・・	
構造物 p.187 本文 (1)	鉄筋コンクリート巻立て工法 <u>鋼板巻立て工法</u>	鉄筋コンクリート巻立て工法	
構造物編 p.187【解説】 (1)，(2) 1行目 (3) 2行目	曲げ耐力	<u>段落し部</u> の曲げ耐力	

<劣化機構編>

ページ等	誤	正	備考
劣化機構編 p.1 本文 1行目	積雪寒冷地において	積雪寒冷地 <u>に</u> において	
劣化機構編 p.5 3行目	アルカリ <u>骨材</u> 反応	アルカリ <u>シリカ</u> 反応	
劣化機構編 p.7【解説】 4行目	促進するといわれています。	促進するといわれて <u>いる</u> 。	
劣化機構編 p.7【解説】 5行目	報告もあります。	報告も <u>ある</u> 。	
劣化機構編 p.13 11行目	簡易的な試験方法あり、・・・	簡易的な試験方法 <u>で</u> あり、・・・	
劣化機構編 p.14 本文 1行目	定期点検で実施される標準調査では凍害を受けた構造物の評価および判定が困難な場合、および劣化予測が・・・	定期点検で実施する標準調査では、凍害を受けた構造物の評価・判定が困難な場合、および劣化予測が・・・	
劣化機構編 p.17【解説】 2行目	詳細は、 <u>共通編</u> を参照のこと。	詳細は、本指針 [<u>共通編</u>] の4章 <u>変状原因の推定および変状の予測を参照</u> のこと。	

ページ等	誤	正	備考
劣化機構編 p.21 下から 8行目	(2) <u>および(3)</u> について	(2) について	
劣化機構編 p.22 1, 2行目	(4) について (2) <u>および(3)</u> で実施した・・・	(3) について (2) で実施した・・・	
劣化機構編 p.26 6行目	診断については4章を参照されたい.	診断については <u>[劣化機構編] の4章 塩害を参照されたい.</u>	
劣化機構編 p.27 下から 8行目	具体的には, 3.3.4 に述べるように・・・	具体的には, <u>本章 3.5 評価および判定(4)</u> に述べるように・・・	
劣化機構編 p.27 下から 4行目	本示方書では,	本 <u>指針</u> では,	
劣化機構編 p.32 4行目	維持管理は <u>この4章</u> に従うものとする.	維持管理は <u>[劣化機構編] の4章 塩害</u> に従うものとする.	
劣化機構編 p.32 8行目	維持管理は <u>この2章</u> に従うものとする.	維持管理は <u>[劣化機構編] の2章 凍害</u> に従うものとする.	

ページ等	誤	正	備考
劣化機構編 p.37 下から 4行目	アルカリシリカ反応反応試験	アルカリシリカ反応試験	
劣化機構編 p.43 4行目	[共通編]を参照するものとする.	本指針 [共通編] の 5 章 <u>評価および判定</u> を参照するものとする.	
劣化機構編 p.48【解説】 2行目	養生終了終,	養生終了後,	

<材料・施工編>

ページ等	誤	正	備考
材料・施工編 p.1 下から 3行目	3章においては、低温環境下での品質確認項目(案)を示した。	<u>低温環境下での品質確認項目(案)</u> を[材料・施工編]3章 <u>材料の品質</u> に示した。	
材料・施工編 p.2 下から 5行目	他材料を選定する必要がある。	<u>湿潤面用材料</u> や他材料を選定する必要がある。	
材料・施工編 p.9 下から 9行目	上塗り <u>と</u> 塗装材	上塗り塗装材	
材料・施工編 p.12【解説】 8行目	浸透性に優れるが、コンクリート内部からの水蒸気透過性を保持する。	浸透性に優れる。 <u>また、</u> コンクリート内部からの水蒸気透過性を保持する。	
材料・施工編 p.15 5行目	有する <u>も</u> がある。	有する <u>もの</u> がある。	